

事業名：えべつ冬季イベント業務

企画課 企画係

政策	99 政策の総合推進								
施策	05 施策の総合推進その5								
基本事業	01 施策の総合推進その5								
開始年度	昭和56年度	終了年度	—	実施計画 事業認定	非対象	会計区分	一般会計	補助金	

事務事業の目的と成果	
対象（誰、何に対して事業を行うのか）	
市民	
手段（事務事業の内容、やり方）	
青年会議所をはじめとする市内各種ボランティア団体・市内の各大学の学生等と実行委員会を結成し、冬季イベントを開催する。	
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	
子どもをはじめ市民一人ひとりが雪と触れ合いながら地域との交流をより一層深めるとともに、多くの市民が冬のえべつを楽しみ、まちの明るい明日を生み出す芽吹きとなることを目的とする。	

指標・事業費の推移						
区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	市民	人	121,705	121,385	120,802	120,802
対象指標2						
活動指標1	実行委員会への参加者数	人	300	300	300	—
活動指標2						
成果指標1	来場者数	人	18,000	18,000	18,000	18,000
成果指標2	イベント参加・協賛金協力団体数	団体	92	93	88	—
事業費(A)		千円	0	0	0	0
正職員人件費(B)		千円	1,605	1,603	1,563	1,565
総事業費(A+B)		千円	1,605	1,603	1,563	1,565

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度	冬季イベント実行委員会事務局	人件費事業

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
事業を取り巻く環境変化	
平成16年度	地区会場の自治会対抗方式の廃止
平成19年度	自連協の地区会場参加取りまとめ廃止
平成20年度	イベント名称から「マシュマロンピック」を外し、「えべつスノーフェスティバル」とする。

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？	
妥当である 妥当性が低い	理由 根拠 本来企業や民間ボランティア団体等の力を結集し行われるべきイベントに対し、市が実行委員会の中心（事務局）となり運営するのは、市の守備範囲を考えると好ましい状態ではなく、妥当性は低い。
(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？	
貢献度大きい 貢献度ふつう 貢献度小さい 基礎的事務事業	理由 根拠 冬季間に親子等で雪に親しむという機会の提供は貴重である。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？	
上がっている どちらかといえば上がっている 上がらない	理由 根拠 青少年の健全育成の点で成果は出ているが、来場者数は天候に左右される状況にある。
(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？	
成果向上余地 大 成果向上余地 中 成果向上余地 小・なし	理由 根拠 広く市民、団体等が参加して開催しているが、事業内容には一定の限界がある。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありますか？	
ある なし	理由 根拠 市が中心となっている実行委員会形式を見直し、NPO法人等が企画・運営等を行う。